

主催：アートワールドひろさき 協力：弘前大学教育学部
弘前市市民参加型まちづくり1%システム採択事業

poco a poco アートのたまご

えほん かいが かんしょうかい

絵本と絵画の鑑賞会

+ワークショップ vol.06

色のついたパウダー状の顔料を、
溶いて、練って、自分だけの絵の具を作ります。

できあがった絵の具で
カラフルな作品を描くワークショップ
日本画の伝統的な材料を使います。

できあがった作品はギャラリーで展示！



とき：2021年9月11日（土）午前10:00～12:30／午後14:00～16:30

※午前・午後とも同じ内容です。

ところ：弘前大学教育学部 4 階美術制作室（文京町）・駐車場あり

対象：幼稚園・保育園生～小学生と保護者（各回12名）

参加費：一人300円（当日受付にてお支払いください。）

お申し込み：2021年8月28日（土）12:00～（先着順）

「アートワールドひろさき」ウェブサイトの専用フォームから。

上のQRコードからアクセスできます。



https://home.hirosaki-u.ac.jp/artworld/contact/artegg_workshop_20210911/

お問い合わせ：✉artworld@hirosaki-u.ac.jp ☎0172-39-3383（出〈いで〉）

すいひ えのぐ

日本画の水干絵具を使って絵画制作をします。

水干絵具は、古くから日本の絵画で使われてきた絵具です。泥絵具とも呼ばれ、天然の土のほか、牡蠣の貝殻からとった白い粉状の胡粉^{こふん}に染料を染めつけた微粒子をもとにしています。この粒子を不純物を取り除いた水で溶いて板状に固めたものが、画材の専門店などで販売されている水干絵具です。現在では、昔ながらの土の色をもとにしたもののほか、さまざまに色鮮やかな絵具を使うことができます。

ですが、このままでは色を塗ることはできません。まずは、使いたい色の水干絵具を乳鉢で擦り、さらには、絵具を紙（和紙）に固定する糊となる膠水^{にかわ}で溶いて、練っていきます。使いたい色の組み合わせを思い浮かべながら進めるこの作業は、普段の絵画制作ではなかなか味わうことのできないもので、まるで本当の絵師になったかのような気分になるかもしれません。

今回のワークショップでは、パネルに日本画用の和紙を貼り、そこに自分で擦って、溶いて、練って作った絵具を数色組み合わせながら、日本画制作に挑戦します。昔ながらの日本画に挑戦することも、あるいは、色彩の組み合わせを楽しみながらモダンテクニックなども使って現代風にアレンジした作品づくりをすることもできます。保護者の方も制作できます。作品づくりに際して、必要な場合には、弘前大学の教員と学生がお手伝いやアドバイスを行います。また、お時間の都合での途中退室も可能です。できあがった作品は、10月はじめに「ギャラリーまんなか」で開催する展覧会への出展を予定しています（展示希望者のみ）。

この機会に、日本画制作の体験をぜひお楽しみください！

